

年 2.4.21
844

四月二十一日

辰巳 治山常助事務室にて解説

一、同日午後二時以降、鎌山側に於て同常之約万石ノ一段トシ
而テ運動、為トモ得事並に切前、仲間、石切場、仙木ノ往
新便ニヨリ所、其事、誰其者、往々同常、引揚ケタガ防、位
然既上事也。

二、同月廿二日、午前九時、多方面より多方面より動し出
勤者、震度弱強、ヒガタ一方鎌山側に於て約万石半丸向右
合之テ之方既成、焉ニメタカ多ナカ競合、演進外事故
ヲ、午前七時半段方引揚ケタ

建物等、初計、矢張外ノ本鎌山側、方援、為、未
し形勢觀中、又本ノ如、矢張、高燃、リテ、甚大、震度
ノ下路、既勝、而過、御御文、ノ下、燃、レ、般、方、傳、震度

記述

かくある事例有明ス。要之、本日六日、三四九(但内)位為震度。
辰巳、午後三時四、五時ハリ四、合計、一五六、一九八四。

大震度出事例、大方略無、今アリ、即、内觀、事、重、本震、之、力、如キナ
本カセシ。